



TITLE:

日本一のクラゲ天国田辺湾(44) ソ  
トエリクラゲ

AUTHOR(S):

久保田, 信

---

CITATION:

久保田, 信. 日本一のクラゲ天国田辺湾(44) ソトエリクラゲ. 紀伊民報  
2011

ISSUE DATE:

2011-11-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180177>

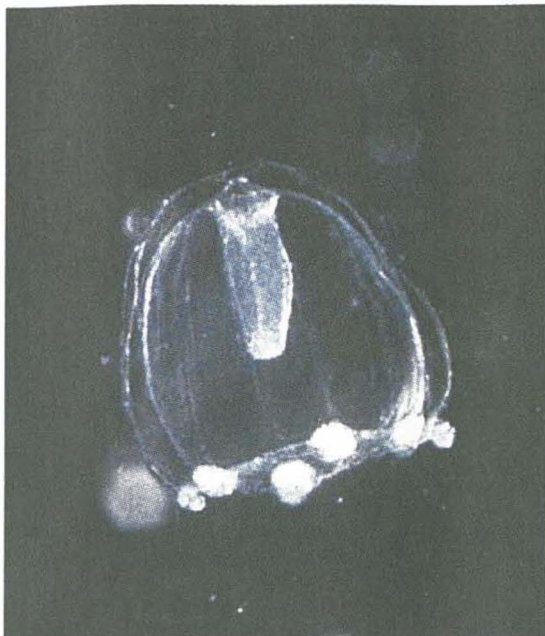
RIGHT:

© 紀伊民報社

紀 伊 民 報

2011年(平成23年)11月30日 水曜日 第20758号 (10)

ソトエリクラゲ



まだ幼いソトエリクラゲ

久保田 信

44



ソトエリクラゲは、傘の外側に襟状のものが突き出ている小型のヒドロクラゲだ。大きくても直径3ミほどにしかない。

画像の個体はまだ若く、「襟」は傘の稜線(りようせ

ん)になるほど発達していない。しかし、1カ所に2本ずつある筋として画像の正面にはつきり見える。襟は合計8本ある。傘の上から見ると襟の張り出しと全体の数と配列が分かりやすい。4本の放射水管の両側に2本ずつ襟がある構造だ。襟の実体は刺胞の列で、塊になっているので、恐らく強力な防御用として使われているのだろう。

触手は採集時に取れてしまったが、全部で4本ある。画像では傘の縁にある左右2個の膨らみに、かろうじて触手が残っている。近縁種のクダ

ウミヒドラモドキは、生涯にわたり触手が2本だけである。すべての触手上的の刺胞も、外向きに複数が点々とついている。なんでも外なのだ。触手の刺胞のこのような特徴は、クダウミヒドラモドキも同じである。

ソトエリクラゲは田辺湾でそれほど多く採れておらず、成熟個体もまれである。わが国でもあまり知られていない。成熟個体だと、クラゲの内側の傘の中央にある口柄を取り囲んで生殖巣ができる。

ソトエリクラゲのクラゲはすごく小さいが、ポリプの1個虫はクラゲの15倍ほどの大きさがある。しかし、野外からはなかなか見つからない。大型の個虫が多数集まった集合体で、群体の高さ(最大個虫の全長)は3セに達する。

まだ筆者は生きたポリプを見たことがない。クラゲは雌雄別々のヒドロ花の上下2環列の触手の間に、フルーツが実るよつに多数できる。

(京都大学准教授)